

活動概要

酒井ゼミでは教育演習、卒業研究の一環として、大学がある鳴尾地区で明治から昭和の初めにかけて盛んに栽培された「鳴尾いちご」を環境学習における地域教材として活用しようと、学校教育館の屋上等でいちごを栽培している。そして、西宮市内の2つの小学校で「鳴尾いちご」の歴史を伝える出前授業を行うとともに、「鳴尾いちご」栽培キットを環境学習教材として子どもたちにプレゼントする活動を行っている。また、地域の洋菓子店と連携して、「鳴尾いちご」を使用したスイーツの販売に向けて取り組んでいる。

活動内容

活動・研究・委託テーマ	鳴尾いちごを地域教材として活用した環境教育の授業づくり
対象となる地域・企業等	西宮市内の学校及び洋菓子店（株式会社ベルン）
活動学生（ゼミ・学年等）	酒井達哉ゼミ 20名（4年生10名、3年生10名）
連携時期	通年（2013年から現在に至る）
学外への広報方法	本学のHP
連携の内容・連携のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> 武庫川女子大学がある鳴尾地区は、明治後半から昭和初期にかけていちごの栽培が盛んであり、「鳴尾といえばいちご、いちごといえば鳴尾」という程、有名であった。そこで、「鳴尾いちご」を環境学習の教材として活用するために、その歴史を文献で調べたり、いちごの品種「宝交早生」の栽培（約500株）を学校教育館の屋上等で行ったりしている。 地域連携として、西宮市内の小学校2年生を対象に「鳴尾いちご」を摘む体験と、歴史と育て方についての出前授業を実施している。本授業は、児童に「鳴尾いちご」の歴史を分かりやすく伝え、また、ペットボトル等を利用して、一人一鉢ずつ、「鳴尾いちご」を栽培する方法を指導するものである。また、地域の洋菓子店と連携して、「鳴尾いちご」を使用したスイーツの開発に向けて取り組んでおり、2019年の秋に地域で販売される予定である。
地域面・教育面での成果	<ul style="list-style-type: none"> 西宮市立鳴尾小学校には、本活動が児童の自然や地域を愛する心情を養うものであることをご理解いただき、今年で4年連続の連携となる。また、昨年度から他の小学校や高校からも連携の依頼を受け、連携の幅を広げている。 参加した学生にとっても、教育現場における地域教材の授業展開の手法を具体的に学べるという効果がある。

コーディネートの課題や運営面での努力

- 大学の屋上の施設で、いちごの苗を栽培することは当初、多くの困難を伴い、試行錯誤を繰り返してきた。しかし、いちごを収穫するとともに西宮市内の学校にいちごの苗を提供するために、土壌改善、肥料、給水、害虫などそれぞれに工夫を凝らして対策を行ってきた。その努力が実を結び、今年は過去最高の収穫高をあげることができた。
- 西宮市立鳴尾小学校においては、秋の出前授業で一人一鉢の「鳴尾いちご」栽培キットを提供した後も、春まで週一回の割合で学生が同校を訪れ、継続的に児童の栽培を指導している。

活動内容PR（活動の様子・関係者からの評価等）

・2017年度には、NHKの情報番組で本活動が取り上げられ、生中継で広く活動の様子が放送されました。

＜活動の様子＞



鳴尾いちご



鳴尾いちごの収穫



児童のいちご摘み体験



いちご栽培の出前授業